

ツーソン日本文化祭にて無施肥無農薬栽培の餅米で餅つき（米国アリゾナ州）

2018年3月 伊吹之博 様 投稿

無施肥無農薬栽培調査研究会（以下「無肥研」という）正会員の伊吹と申します。米国アリゾナ州ツーソンに長期滞在しております。私が会長を務めている南アリゾナ日本文化会が主催するツーソン日本文化祭が2018年1月20日ピマ大学で開催され、日本の文化に関する多くの舞台発表、展示、出店とともに餅つきをしました。今回は無施肥無農薬栽培（以下「無施肥栽培」という）の餅米を使用することが決定、この会の予算に組み込まれることになり、日本から無施肥栽培のもち米ときな粉を持ってきました。前日に日本から無肥研理事の小林正幸氏にお出でいただき、餅つきなどの打ち合わせをして頂きました。ツーソン日本文化会当日は、悪天候にもかかわらず1300人を超える人（ほとんどが日本人以外の方）が集い、おかげ様で大盛況でした。



ピマ大学の学長の挨拶のあと、開会の挨拶をさせて頂き、そこで餅米ときな粉は無施肥栽培のものを使用することをお話しし小林氏を紹介しました。餅つきの前に小林氏に無施肥栽培の説明をしていただきました。



無施肥栽培のきな粉餅は大人気で長蛇の列ができ、用意した餅米15キロきな粉1.5キロでつくった730個はすべてなくなりました。担当したボランティアの方も「餅に腰があっておいしい」とおっしゃり、参加者も「おいしい」と大変好評でした。





きな粉餅を配る横に、無施肥栽培の説明のボードを係の方が作成して下さいましたが、農家の方が熱心に見ておられ、小林氏に説明して頂きました。



小林氏にはツーソン日本文化会のほか、何箇所か訪問し無施肥栽培のお話をしていただき、興味を持ち質問をする人も多くおられました。あるお宅では家庭菜園を視察、スライドを使って無施肥栽培のお話をして頂きました。後日このご家庭では食事会を開かれ無施肥栽培米の白おにぎりが出されると出席者は「米一粒一粒がおいしい」「一般の米と全然ちがう」と喜んでいました。



ここアメリカでも無施肥栽培の関心が高まればと願っております。小林氏には御多忙の中遠路お越し頂き感謝申し上げます。（伊吹之博）